

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 9月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400314		
法人名	医療法人 寿生会		
事業所名	グループホーム 寿生の家		
所在地	出雲市上塩冶町2854-3 (電話) (0853)30-1110		
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(19年 8月 31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 13 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 8.4	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	380 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8 月 31 日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 65 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寿生病院 ・ 塩冶川田歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一角にある同法人の医療・保健施設と協力、連携しながら、24時間、適切な介護、看護を受けられる事は、利用者や家族に大きな安心を与えている。法人内で異動がないよう配慮されており、安定した馴染みの関係を築いている。マニュアルや介護計画など各種記録が整備されており、特にヒヤリハット、事故防止に対する徹底した対応には感心させられた。全職員がいきいきと働いている姿は利用者家族も感じる場所である。研修や勉強会も積極的に取り組んでいる。全職員に事業所の理念が浸透しており、日々の生活において、利用者に寄り添い、声に耳を傾け、一人ひとりを大切にされた接遇や声掛けは特に意識して取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前向きに改善していく姿勢が見て取れる。改善されにくいハード面での問題も、出来る範囲内で工夫、努力している。排泄の声掛けや入浴時、申し送りなど改めて見直し、確認しあいながらプライバシーを守っていかうとする努力が伺える。利用者の側に寄り添い、さりげない援助がなされていた。申し送り簿や伝達メモなどは伏せて置くなど配慮をしていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や各ユニットのケアマネージャーを中心に、パート職員も含め全職員で話し合った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議で得た情報は、即、職員会議で全職員が共有し、サービスに活かしている。月だよりの定期受診日の掲載も、家族の要望を取り入れたものである。運営推進会議では、スライドによる利用者の生活ぶりが披露されるなど、参加者に分かりやすく伝える工夫がされている。地域の方が参加して下さる事で地域の情報が得やすくなり活動も広がりを見せている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議をはじめ、家族からの意見は即、検討している。玄関に意見箱も設置している。毎月おたよりを発行し、利用者の暮らし振りがわかる写真や次の受診日、担当者からの個別コメントを載せるなど工夫し、家族に安心して頂ける工夫をしている。金銭管理も月1回、家族に確認してもらっている。担当制にする事で、利用者や家族とより深く関り、信頼関係を構築している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	秋の収穫祭やパザーのチラシを利用者も一緒にご近所へ配っている。販売する手作りの奈良漬や芋煮会は地域にも評判である。ご近所の方と散歩で会話したり、近隣保育園との交流や、高校生ほか各種ボランティアの受け入れも積極的にしている。同法人内でのイベント参加や交流もしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域の中でその人らしい生活の支援を基盤とし、一人ひとりの意思を尊重した理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活において、利用者一人ひとりを大切にしたい接遇や声かけは全職員が特に意識して取り組んでいる。手書きの理念が玄関の色紙掛けに飾られたり、おたよりにさりげなく載せて家族や地域に配布し理解を深める努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋の収穫祭やバザーのチラシを利用者も一緒にご近所へ配っている。販売する手作りの奈良漬や芋煮会は地域にも評判である。散歩の際にご近所の方と会話したり、近隣保育園との交流や、高校生ほか各種ボランティアの受け入れも積極的にしている。同法人内でのイベント参加や交流もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、結果を真摯に受け止め、年々、前向きに改善していく姿勢が見て取れる。改善されにくいハード面での問題も、出来る範囲内で工夫、努力されている様子が伺える。又、自己評価は玄関にファイルして置かれており、来訪者が自由に閲覧出来る。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た情報は、即、職員会議で全職員が共有し、サービスに活かしている。利用者の生活ぶりをスライドを使って披露するなど、参加者に分かりやすく伝える工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から依頼されて、運営推進会議に、市内の新しい事業所(2箇所)から見学を受け入れるなど、市全体の事業の発展に協力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員が交代で毎月おたよりを発行している。利用者の暮らし振りがわかる写真や次の受診日、担当者からの個別コメントを載せるなど工夫し、家族とのコミュニケーションの場にもなっている。金銭管理も月1回、家族に確認してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、家族からの意見は即、検討している。月だよりの定期受診日の掲載も、家族の要望を取り入れたものである。玄関に意見箱を設置しているが、利用はない。	○	意見箱をより活用して頂けるよう、存在のアピールを期待する。又、より気軽に投函出来る設置場所の検討をお願いしたい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は、法人内他施設間での異動があったが、現在は異動がないように配慮されている。担当制にする事で、利用者や家族とより深く関り、信頼関係を構築している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回の勉強会では職員が勉強したい内容を掲げ、月1回の法人内研修会や年1回外部研修参加など非常に熱心に取り組んでいる。研修後の伝達講習も必ず行われている。研修や勉強会の記録は回覧され、参加出来なかった職員も共有出来る仕組みになっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会への参加は勿論、管理者同士で交流をもっている5つの事業所間で連絡会を持ち、情報交換をしたり、職員がそれぞれを見学しあうなど、共にサービス向上への取り組みを探る努力をしている。	○	見学にとどまらず、交流している事業所との間で、職員が1日体験してみると、自身の事業所の長所、短所を客観的に見る事ができ、お互いのレベルアップにつながると思う。更なる向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学に始まり、徐々に見覚えのある顔になるまで、職員が配慮しながら対応している。同事業所の通所サービス利用から顔馴染みとなり入所されるケースもある。本人や家族の思いを十分取り入れるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯、たみ、畑仕事、炊事など利用者の出来る力を見極め、やる気を引き出す声かけや対応に努めている。元の職業を活かした手伝いをして下さる方もある。作業後の利用者の反応を見極めながら、利用者への感謝の言葉を忘れず、「いい顔」を引き出す努力をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が理念に沿って一人ひとりの希望や思いを受け止めた援助をしている。馴染みである担当職員を中心に利用者の声を拾い上げ、一番に考えている。状況が変わったり、意思疎通が困難な場合も、本人や家族を交えてカンファレンスを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を尊重して担当職員が中心となりプランを作成しケアマネージャーと相談するが、全職員の日々の気づきを担当者に申し送りメモで伝えるシステムがある。又、必ずカンファレンスを開いて決定している。必要な場合は医師やPT、STなどの意見も取り入れながら作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度は見直しを行っている。プラン項目のチェックは内容に応じて日勤帯、夜勤帯で毎日行い、実践できずに計画にしかたないプランは早目に変更している。変更したプランは全職員が毎日目を通すカンファレンスノートに記録され、共有するシステムにある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	予定日以外の通所や空き部屋を利用している。ショートステイの受け入れをしている。急な受け入れも出来るだけ対応していかうとする努力が伺える。受診の付き添いや墓参りなど希望に応じ長時間の外出など、利用者への柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定や受診先の選択は本人、家族がしている。職員の付き添いで受診するが、報告や情報交換をきちんと行っている。家族の要望があり、受診日を事前におたよりで家族に伝え、希望される家族は立ちあって、直接病状説明を聞いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師からのインフォームドコンセントをきちんと行ってもらい、家族の要望を聴きながら方針を決定する。十分に協議を重ね、方針は全職員が共有している。24時間体制で健康管理や、いつでも看護師と連絡がとれる体制になっている。これまでに3ケースの看取りを経験し、緊急時の対応や終末期ケアの大切さを実践で学んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声かけや入浴時、申し送りなど改めて見直し、確認しあいながらプライバシーを守っていかうとする努力が伺える。利用者の側に寄り添い、さりげない援助がなされていた。申し送り簿や伝達メモなどは、机の上に伏せて置くなど配慮をしていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしの情報シートを個別に作成し、入所前の生活習慣を細かく把握している。お茶の時間には飲みたい物を聞くなど、利用者の希望を取り入れ、活動は利用者のペースに合わせ、「今はダメと言わない」「無理強いしない」ケアに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人全体で業者委託をしている。家庭的な環境作りの大切さから、昼食だけでも、利用者と一緒にご飯を炊き、副菜を一品作るように改善している。時には、昼食全部を止めて、利用者が献立、買い物、調理出来る機会も設けている。茶碗や湯のみ箸などは個人の物を使っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大きな窓があり大変明るく、眺めの良い浴室である。入浴の頻度や時間は本人の意志を尊重しつつ支援に工夫している。夕方の入浴や毎日の入浴など希望に添うようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や特技を活かし、奈良漬作り、炊事、掃除、洗濯たたみ、畑仕事、日曜大工、買い物など様々な面で利用者に活躍の場を設けている。又、フロアには、懐かしい小物や道具がさりげなく置かれていたり、箒やモップも利用者の目に付く場所に置かれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、お墓参り、散髪、外食、ドライブなど、利用者の希望に添った外出支援をしている。年1回、家族を呼んでの遠足や誕生日には外出して食事をしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかけることは全く無い。玄関も夜間以外に鍵をかけない。各玄関や出入り口にセンサーが付けられ、戸の開け閉め時にチャイムが鳴るようになっている。出かけられた時には、職員と一緒に付き添い、利用者の意思を尊重しながら生活を支援している。		利用者の立場に立ったケアを行う事で、外出を察知し、自由な暮らしを支えている。チャイムやセンサーは利用者や来訪者に違和感を感じさせる事がある。これらの利用について、この機会に職員間で話し合って頂きたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災の避難訓練を行っている。地区の消防団にも参加して頂き、外部の目から貴重な意見を頂いた。実際に災害にあわれた他施設から情報を入手する等、災害対策に前向きに取り組んでいる。	○	法人全体の備蓄は準備されているが、他施設に置かれており、事業所内に配置されていない。必要な備蓄を話し合い、事業所にも緊急時に備えをして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人全体の献立を法人内栄養管理士と業者で決定する。そのメニューを利用者の状態や嗜好にあわせて調整している。十分な水分摂取に心がけ、摂取量が少ない方には水分チェック表を使って気をつけている。嚥下障害の方にはゼリー状にして摂りやすくしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や緑、温もりのある絵がいたるところに飾られている。懐かしさを感じる古いタンスや人形、紙風船などの小物がさりげなく飾られていて利用者の心を和ませている。畳のスペースが家庭的な雰囲気を出している。ハード面の問題はあまるもの、つい立てやソファを利用した工夫がみられる。		ハード面での改善は難しいと思われるが、現場の声を法人に伝える努力を続けて頂きたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた馴染みの物を持参してもらおう家族に説明し、利用者が安心して心地良く過ごせる居室作りを心がけている。どの居室も雰囲気が違って、入居者の個性を感じる事が出来た。食後は自然と自分の居室に戻られる方が多く、居室の心地良さが感じられた。		本人が見慣れた物、使っていた馴染みの物が大切である事を繰り返し家族に伝え、入居時に限らず持って来て頂けるように働きかけを続けて頂きたい。